



# 高梁川の水辺の生きもの調査

(令和4年度高梁川水生生物調査)



## 1 調査の目的

高梁川に対する市民の環境保全意識<sup>かんきょうほぜんいしき</sup>の向上のために、高梁川に生息する水辺の生きものを調査しました。

## 2 調査の内容

### (1) 調査した水辺の生きものと季節

- ・魚<sup>ぎよるい</sup>（魚類）、魚類以外の水辺の動物<sup>ぎよるい</sup>（底生生物<sup>ていせいせいぶつ</sup>）、川底の石の表面に付着した小さな植物の仲間<sup>そうるい</sup>（藻類）について調査しました。
- ・「魚類<sup>ぎよるい</sup>」、藻類<sup>そうるい</sup>」については令和4年9月に調査しました。
- ・「底生生物<sup>ていせいせいぶつ</sup>」については令和4年12月に調査しました。

### (2) 調査地点

- ・調査地点は高梁市内を流れる高梁川本流の2地点としました。  
（貴重な生きものが確認されたため、場所については示しません）

### (3) 調査の方法など

- ・調査を行った川の深さは約10～40cmくらいで、底には砂や様々な大きさの石がありましたが、10～50cmくらいの大きさの石が多く見られました。
- ・「魚類<sup>ぎよるい</sup>」については、潜<sup>もぐ</sup>って観察したり、柄<sup>え</sup>のついた網<sup>あみ</sup>や投網<sup>とあみ</sup>などにより採集<sup>さいしゅう</sup>し、名前（種名）を調べました。
- ・「底生生物<sup>ていせいせいぶつ</sup>」については、川底の石の表面<sup>すきま</sup>や隙間などに生息する水生生物を網などにより採集<sup>あみ</sup>し、顕微鏡<sup>さいしゅう</sup>により名前（種名）を調べました。
- ・「藻類<sup>そうるい</sup>」については、川底の石の表面に付着した藻類<sup>そうるい</sup>を採集<sup>さいしゅう</sup>し、顕微鏡<sup>けんびきょう</sup>により名前（種名）を調べました。

### 3 調査の結果

#### (1) 魚類

- 14種の魚類が確認されました。
- 最も多く確認されたのは、カワムツ（地方名モツなど）、カワヨシノボリ（地方名ゴリなど）でした。
- 貴重な魚類として、アカザ、カジカ類の2種が確認されました。

#### 確認した魚類

種名	貴重な魚類のレベル
フナ類	
オイカワ	
カワムツ	
ウグイ	
ムギツク	
カマツカ	
ニゴイ類	
イトモロコ	
ギギ	
アカザ	絶滅危惧2類（環境省） 準絶滅危惧（岡山県）
アユ	
カジカ類	準絶滅危惧または絶滅危惧1類（環境省） 情報不足（岡山県）
カワヨシノボリ	
ヌマチチブ	

注) 貴重な魚類の種名を〇〇〇で囲んでいます。

(参考) 貴重な魚類のレベルについて

レベル	レベルの説明
ぜつめつきぐ 絶滅危惧1類	ぜつめつ き き 絶滅の危機がせまっているもの
ぜつめつきぐ 絶滅危惧2類	ぜつめつ きけん 絶滅の危険が大きくなっているもの
じゅんぜつめつきぐ 準絶滅危惧	生息場所などが不安定なもの
じょうほうぶそく 情報不足	ひょうか じょうほう 評価するだけの情報が不足しているもの

注) くわしい説明については環境省または岡山県のホームページを参考にしてください。

かくにん ぎよるい  
○確認した魚類の説明

・フナ類

「小フナ釣りし、かの川…」の歌にもなっているように最もよく見かける淡水魚です。代表種のギンブナは雌だけで繁殖ができる珍しい生態を持った魚でもあります。



・オイカワ

ハエ、シラハエなどと言われ、寒バエ釣りで有名です。体長は約15cmです。岡山県内の川や水路に広く生息し、放流も行われています。産卵時期の雄には青緑とピンクのまだら模様が現れます。  
(写真は雄)



### ・カワムツ

モツ、ネコマタギさんらん（産卵時期おすの雄）などと言われ、岡山県内の川や水路に広く生息しています。体長は約 20 cm です。最近、カワムツとヌمامツ（岡山県では主に平野部に生息）の 2 種に分けられました。



### ・ウグイ

イダ、イダゴイなどと言われ、岡山県内の川に生息しています。体長は約 30cm です。産卵時期さんらん（春）には体にそって三本の赤い線あらわが現れます。（写真は幼魚）



### ・ムギツク

頭から尾まで太い黒線が走る魚で、岡山県内では川に広く生息しています。体長は約 15 cm です。オヤニラミ（スズキの仲間）やドンコ（ハゼの仲間）の産卵場所さんらん たまごに卵を産み付ける面白い習性しゅうせいが知られています。（写真は幼魚）



### ・ニゴイ

キツネゴイ、イダなどと言われ、コイを細長くしたような体をしています。体長は約 30cm です。岡山県内では、コウライニゴイとニゴイの 2 種が確認されていますが、広く生息しているのはコウライニゴイです。ヒゲが 2 本あります。(写真は幼魚)。



### ・イトモロコ

ソコバエなどと言われ、岡山県内では川に広く生息しています。体長は 7~8cm です。ヒゲが二本あり、体の中心に並ぶ鱗うろこが上下に長いのが特徴です。



### ・カマツカ

スナホリなどと呼ばれ、岡山県内の川や水路に広く生息しています。全長は約 20 cm です。いつも川の底に張り付いており、よく砂に潜もぐります。



### ・ギギ

ナマズに似ていますが、ヒゲが8本あり、岡山県内の川や水路に広く生息しています。体長は約 25 cmです。背びれと胸びれの付け根の棘に毒があり、棘に刺されると大変痛みます。



### ・アカザ

チョウキリなどと呼ばれ、岡山県内では流れの速い川の底石の多い場所に生息していますが、数は多くありません。体長は 10 cmです。ヒゲが8本あり、背びれと胸びれの付け根の棘に毒があり、棘に刺されると大変痛みます。



### ・アユ

友釣りの対象として有名で、岡山県内の川に広く放流されています。体長は約 20 cmです。石の表面に生育する藻類（藍藻・珪藻）を食べるため、生息場所にはゆがんだキスマークのような食痕（はみあと）が見られます。



(参考) アユのはみあと



### ・カジカ類

一見、ハゼの仲間に見えますが、海に生息するカサゴの仲間です。体長は約 15 cm です。岡山県内では、流れの速い川の底石の多い場所に生息していますが、数は多くありません。

岡山県にはよく似た 2 種類（大卵型、だいらんがた中卵型）ちゅうらんがたが生息するとされています。



### ・カワヨシノボリ

ゴリなどと言われ、岡山県内の川や水路の底に広く生息するハゼの仲間です。体長は約 6 cm です。岡山県ではよく似たヨシノボリ類しゅるいの仲間が何種類か生息していますが、本種は数が最も多く、広く生息しています。



### ・ヌマチチブ

岡山県内では、県中南部の川の底に生息するハゼの仲間です。全長は約 15 cm です。底に石の多い場所に生息しています。



## (2) 底生生物

- 68種の底生生物が確認されました。
- 最も多く確認されたのは、昆虫の仲間のシロタニガワカゲロウ幼虫、ヒゲナガカワトビケラ類幼虫でした。
- きれいな水に生息する種として、ナミウズムシやサワガニの他、昆虫の仲間のヒラタカゲロウ類幼虫、ブユ類幼虫、カミムラカワゲラ幼虫、などが確認されました。
- 確認された底生生物から、環境省の生物学的な水質判定を行った結果、両方の水質階級Ⅰ～Ⅱ（Ⅰ）（きれいな水～ややきれいな水）と判定されました。  
(水質階級についての詳しいことは環境省のホームページを見て  
ください)

(参考)

水質階級	水質
水質階級Ⅰ（Ⅰ）	きれいな水
水質階級Ⅱ（Ⅱ）	ややきれいな水
水質階級Ⅲ（Ⅲ）	きたない水
水質階級Ⅳ（Ⅳ）	とてもきたない水

水質階級表





かくにん ていせいせいぶつ  
 確認した底生生物 (1)

番号	ぶんるい 分類(仲間分け)	種名	
1	プラナリアの仲間	ナミウズムシ	
2	貝の仲間	カワニナ	
3		ハブタエモノアラガイ	
4		サカマキガイ	
5		シジミ類	
6		ヒルの仲間	イシビル類
7	エビカニの仲間	ミズムシ	
8		カフリヌマエビ類	
9		サワガニ	
10	昆虫の仲間	キイロカワカゲロウ	
11		トウヨウモンカゲロウ	
12		モンカゲロウ	
13		オオクママダラカゲロウ	
14		クロマダラカゲロウ	
15		オオマダラカゲロウ	
16		シリナガマダラカゲロウ	
17		アカマダラカゲロウ	
18		エラブタマダラカゲロウ	
19		フタバコカゲロウ	
20		シロハラコカゲロウ	
21		チラカゲロウ	
22		シロタニガワカゲロウ	
23		オニヒメタニガワカゲロウ	
24		ウエノヒラタカゲロウ	
25		ユミモンヒラタカゲロウ	
26		トンボの仲間	ミヤマカワトンボ
27			ニホンカワトンボ
28			ギンヤンマ
29			コシボソヤンマ
30			ヤマサナエ
31			ダビドサナエ類
32			オナガサナエ
33			コオニヤンマ
34			ヒメサナエ
35			オジロサナエ
36			コヤマトンボ
37		シオカラトンボ	
38		カワゲラの仲間	カミムラカワゲラ
39			フタツメカワゲラ類
40			クラカケカワゲラ類
41			ヒメカワゲラ類

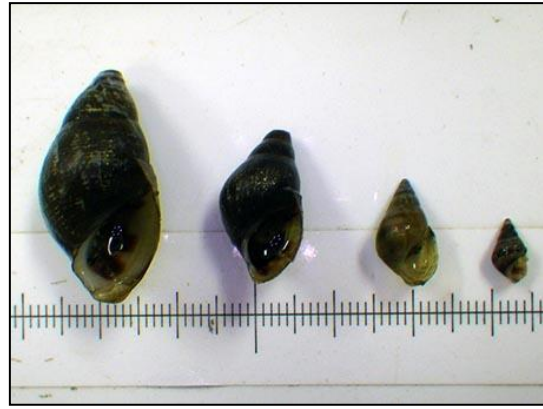
かくにん ていせいせいぶつ  
 確認した底生生物（２）

番号	ぶんるい 分類(仲間分け)	種名
42	トビケラの仲間	コガタシマトビケラ類
43		ウルマーシマトビケラ
44		ナカハラシマトビケラ
-		シマトビケラ類
45		ヒゲナガカワトビケラ
46		チャバネヒゲナガカワトビケラ
47		ヒロアタマナガレトビケラ
48		ヤマナカナガレトビケラ
49		ビワアシエダトビケラ
50		コブニンギョウトビケラ類
51		カクツツトビケラ類
52		タテヒゲナガトビケラ類
53		セトビケラ類
54		トウヨウグマガトビケラ
55	ハエの仲間	ウスバガガンボ類
56		ガガンボ類
57		エリュスリカ類
58		オオユキユスリカ類
59		アシマダラユスリカ類
60		アシマダラブユ
61		アシマダラブユ類
62	コウチュウの仲間	キベリマメゲンゴロウ
63		ムナビロツヤドロムシ
64		イブシアシナガドロムシ
65		ミゾツヤドロムシ
-		ツヤドロムシ類
66		クシヒゲマルヒラタドロムシ
67		ヒラタドロムシ
68	ゲンジボタル	

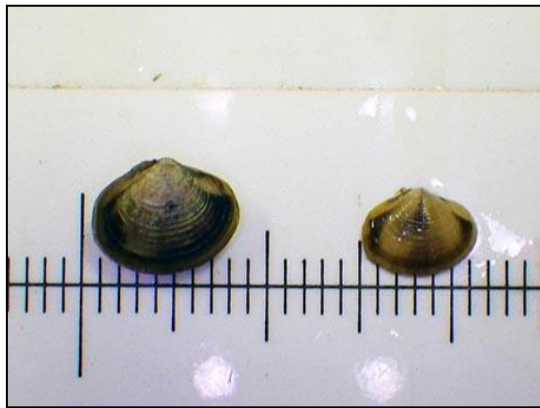
かくにん ていせいせいぶつ  
○確認した主な底生生物の写真



ナミウズムシ



カワナ



シジミ類



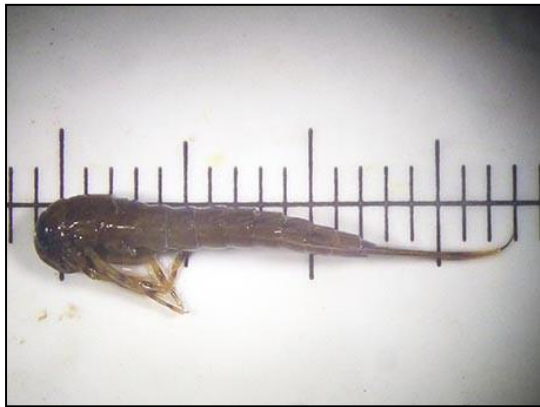
サワガニ



モンカゲロウ ようちゅう 幼虫



オオマダラカゲロウ ようちゅう 幼虫



チラカゲロウ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



シロマダラカゲロウ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



オナガサナエ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



カミムラカワゲラ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



ウルマーシマトビケラ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



ヒゲナガカワトビケラ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



ビワアシエダトビケラ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



カクツツトビケラ<sup>ようちゅう</sup>類幼虫の巢



アシマダラブユ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



キベリマメゲンゴロウ



ヒラタドロムシ<sup>ようちゅう</sup>幼虫



ゲンジボタル<sup>ようちゅう</sup>幼虫

(3) <sup>そうるい</sup>藻類

- ・ビロードランソウやタルケイソウ, ツメワカレケイソウなどを<sup>かくにん</sup>確認しました。

<sup>かくにん</sup> <sup>そうるい</sup>  
確認した藻類

分類(仲間分け)	和名
<sup>らん</sup> <sup>そう</sup> 藍藻	ビロードランソウ
	サヤユレモ
<sup>けい</sup> <sup>そう</sup> 珪藻	タルケイソウ
	クチビルケイソウ
	クサビケイソウ
	フナガタケイソウ
	マガリクサビケイソウ
	ツメワカレケイソウ
	コメツブケイソウ
	ササノハケイソウ
	イカダモ
<sup>りよく</sup> <sup>そう</sup> 緑藻	ヒビミドロ
	タマモの仲間
	サヤミドロ

<sup>かくにん</sup> <sup>そうるい</sup> <sup>けんびきょう</sup>  
○確認した主な藻類の写真 (写真は顕微鏡写真です)



ビロードランソウ



タルケイソウ



ツメワカレケイソウ

